

第1回 木曾山崎団地地区まちづくり検討会 議事要旨

| | | |
|------------|--|-------------------------------|
| 日時 | 2024年7月26日(金) 14:00~15:40 | 場所：木曾山崎コミュニティセンターB館3 階大会議室 |
| 出席者 | 町田市木曾山崎団地地区まちづくり検討会委員 清水委員(東京都立大学教授)、佐藤委員(町田山崎団地自治会)、田中委員(町田木曾団地自治会)、金子委員(木曾団地自治会)、石崎委員(町田木曾住宅ト号棟管理組合) 牧野委員(上山崎町内会)、平本委員(本町田町内会)、齋藤委員(サンヒルズ町田山崎管理組合)、松山委員(町田山崎第二住宅管理組合法人) 委員随行者：3名 | |
| オブ ザーバー | 都市再生機構 東日本賃貸住宅本部 多摩・神奈川エリア再生部 ストック再生事業課 名取氏、長谷川氏 | |
| | 東京都住宅供給公社 住宅総合企画部 建設推進課 依田氏、永井氏、保田氏、魚津氏 | |
| 事務局 | 町田市 都市づくり部 都市政策課 モノレールまちづくり推進室 柘植野室長、穴水推進担当係長、今野主任、小泉主任 | |
| 傍聴者 | なし | |

■提出資料

- 資料1：町田市木曾山崎団地地区まちづくり検討会委員名簿
- 資料2：町田市木曾山崎団地地区まちづくり検討会設置要綱
- 資料3：木曾山崎団地地区「まちづくり検討会」及び「まちづくりワークショップ」の開催について
- 資料4：町田市木曾山崎団地地区まちづくり構想(2013年7月)
- 資料5：現行の構想(「町田市木曾山崎団地地区まちづくり構想(2013年7月)」)とこれまでのまちづくりの取組について
- 資料6：第1回木曾山崎団地地区まちづくりワークショップの概要について
- 資料7：第1回木曾山崎団地地区まちづくりワークショップの資料案について
- 資料8：まちづくりアンケートの概要について
- 資料9：木曾山崎団地地区 まちづくりアンケート案(配布用)
- 資料10：木曾山崎団地地区 まちづくりアンケート案(掲示用)

■議事

1. 開会

【会長選出について】

東京都立大学教授である清水委員が選出された。

2. 検討会及びワークショップの開催について

(会長)

町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想(以下、まちづくり構想)を策定するにあたり、関係者等の意見を聴取する「まちづくり検討会」(以下、検討会)と幅広い方々から意見を伺いたく、「まちづくりワークショップ」(以下、ワークショップ)を開催する。まちづくり構想については、目標年次が2040年となっているため、策定(2026年策定予定)から約15年後の姿を明記することになる。そのため、この地区に住んでいる方や将来、木曽山崎団地地区で活躍する方のご意見も伺いたく、ワークショップでは、大学生や地域外の方にもお声掛けをしている。

3. 現行の構想(2013年「町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想」とこれまでのまちづくりの取組について

(委員)

改定するまちづくり構想の内容はモノレール延伸に特化するのではなく、対象区域内の全体的なまちづくりを検討するのか。

(事務局)

ご認識の通りである。モノレール延伸については一つの契機ではあるが、当初のまちづくり構想に定められた理念の実現に向け、引き続き取組みを行っていくとともに新たな取組みを定めたいと考えている。

(委員)

40年前から存在している木曽山崎団地地区の都市計画道路については今後、開通する目途はあるのか。

(事務局)

都市計画道路については昭和30年代から計画されている。東京都や町田市等関係する自治体が協議しながら、優先的に整備する道路が決められており、山崎団地地区の都市計画道路については優先的に整備される道路に位置付けられていないため、今のところ整備の予定はない。

(委員)

山崎中学校は統合される予定だが、統合された後、山崎中学校跡地の利活用は何か想定があるのか。

(事務局)

山崎中学校の今後における活用については未定である。山崎中学校は、今回のまちづくり構想で設定した区域に存在せず、まちづくり構想改定にあたって具体的な検討は行わない予定。

(会長)

2013年に策定された現まちづくり構想はおそらく2030年頃を想定して策定されたものと推察する。現まちづくり構想が次の段階に向かっている中、モノレール延伸の計画があり、今後のまちづくりとして考えなければならない要素となっている。現まちづくり構想に明記された課題に対しては、引き続き取組みを行っていくとともにモノレール延伸による変化を想定しながら、今回のまちづくり構想の改定に取組んでいけたら良い。まちづくり構想で明記された取組みは今後、実施することになるため、様々な取組みを明記するためにも多様な意見をいただきたい。

4. 第1回木曾山崎団地地区まちづくりワークショップ、まちづくりアンケートの概要と資料案について

【まちづくりワークショップについて】

(事務局)

ワークショップ開催のお知らせを対象区域の団地へ全戸配布を実施したが、ワークショップ参加の申し込み状況は芳しくない状況である。参加者を増やすためのアイデアについてご意見いただきたい。

(委員)

我々委員やまちづくり構想の対象区域外の人達も参加できるのか。

(事務局)

委員の方や対象区域外の方にも参加いただきたい。町内会や自治会などなるべく多くの方に参加していただきたいので、周りの知り合いにも声をかけていただきたい。

(委員)

今回のワークショップは対象区域の住民や事業者等を周知対象としているが、周知対象を広げてみてはいかがか。地域の商店や幼稚園、また様々なメンバーから構成されている地区協議会に周知する方法もある。

(事務局)

地区協議会等、他に周知できる方法を検討したい。自治会で参加者を募ることは難しいか。

(委員)

山崎団地では月1回新聞を発行しており、新聞に参加募集の記事を載せて周知する方法もある。今回は締切の都合上、掲載は難しいが、次回以降は検討したい。

(委員)

コミュニティ委員会が最近、開催され、現在は、周知が難しい状況ではあるが、例えば、管理組合としてエレベーター前の掲示板にワークショップ開催のお知らせを貼ることは可能である。

(事務局)

自治会から何名程度参加できそうか。

(委員)

8/18 までに委員会など自治会の集まりが開催されるため、その場でできるだけ声をかけてみる。

【まちづくりアンケートについて】

(会長)

ワークショップのみだと少数の意見しか聴取できないこと、木曾山崎団地地区の問題点や必要なこと等、より幅広い方の意見を聴取したいため、別途アンケートを実施する。アンケートで設定した質問項目で見落としがないか確認いただきたい。

(委員)

山崎団地の住民の半数が高齢者となっており、アンケートの字が小さかったり、文量が多かったりすると、答えてもらえない。

(委員)

ご提示いただいたアンケートは、内容が多く、高齢者は回答が難しい。先日、生活の苦情に関するアンケートをとったが、内容が多く、回答が難しかった。

(委員)

タイトルについて、木曾山崎団地地区というネーミングは再考したほうがよい。タイトルが山崎団地のことを指していると勘違いし、東京都住宅供給公社の木曾住宅が対象でないと感じてしまう。また、木曾住宅は 904 世帯の団地だが、アンケートを行っても回収率が良くない。高齢者が多く、回収や投票なども効率よくできない現状である。アンケートの回収ボックスは 2 か所の予定だが、自治会事務所やスーパーマーケット等身近に回収ボックスがあると良い。

(会長)

アンケート内で子供にとって良いまちについても質問項目として設定しているが、高齢者の方は回答しなくてよいのではないかと。全部の項目を一人で回答する形式でなくても良いと思う。また、意見が聴取したい”働いている若い世代”や”ママ世代”については、紙面のアンケートや web 回答などが有効であるが、高齢者の方は、どの場所にどういった問題があるか、困っていること等についてシールを貼ってもらうパネル調査なども方法としてある。このように世代によって回答方法を変えると良い。

(委員)

シールを貼るパネル調査は良い。町トレ(町田を元気にするトレーニング)を定期的
に実施しており、その場で併せてパネル調査を行うと興味を持ち、協力してく
れる方も多いのではないかと。

(委員)

アンケートは、回答者の層が偏らないほうが良い。通勤・通学者や来街者
からも意見を聴取したい。

また、通勤・通学者は「場所が不便」という話はよく聞くため、アクセ
スの問題はある。現在、シャッター商店街になっているが、団地地域で楽
しめる、おしゃれな魅力あるお店を呼び、若い人達が「木曾山崎団地
に来たい、桜美林大学に来たい」と思える、地域に魅力があるとい
ったことも今後のまちづくりにおける条件となるため、意見として
反映していただければと思う。

(委員)

まちづくり構想は、未来のビジョンを策定することや将来のまちづく
りを考えるため、既に何十年と住んでいる人よりも若い人の意見を聞
きたい。ワークショップでも議論したいが、ショッピングモールを誘致
できれば、若い人をこの地区に呼び込むことができ、この地区の魅
力発信につながる。

【総評】

(会長)

モノレール延伸によりまちづくりとして様々な可能性が広がる。また、私
自身も2040年には70歳代になり、その時のニーズについては現段階
で想像しても分からない。今の世代の悩みや皆さんのご意見が次の
世代へ刺さり、将来のまちづくりの参考になる。また、若い方につ
いてはアンケートやワークショップのみならずこの木曾山崎団地地区
でどのようなことがしたいか今後のまちづくりにつながる意見を聴
取りたい。今後、まちづくりを検討するこの場を有意義にするため、
今、住んでいる方がこれからの木曾山崎団地地区を想像して意見を
いただくのに併せて、若い方の将来の意見を聴取するにあたって
ワークショップやアンケート調査がどのような過程を踏むのか重要
になってくる。

5. その他

(事務局)

木曾山崎コミュニティセンターは改修工事に入るため、2024年11月1
日から2026年2月28日まで閉館予定である。今後の検討会会場は
検討中である。

6. 閉会

(事務局)

次回第2回のまちづくり検討会は11月に実施予定である。会場も含め決まり次第ご連絡させていただく。